



第11回 経済・財政一体改革推進委員会資料

愛知県豊明市
産学官協働のミクストコミュニティづくりを通じた
地域再生への取り組み

豊明団地から広がる地域包括ケアシステム
「けやきいきいきプロジェクト」



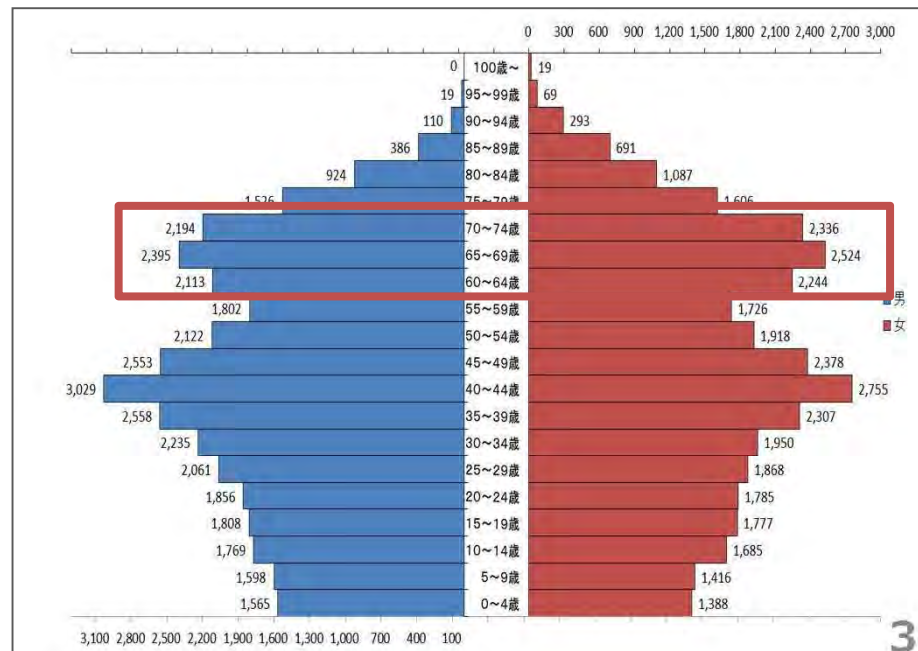
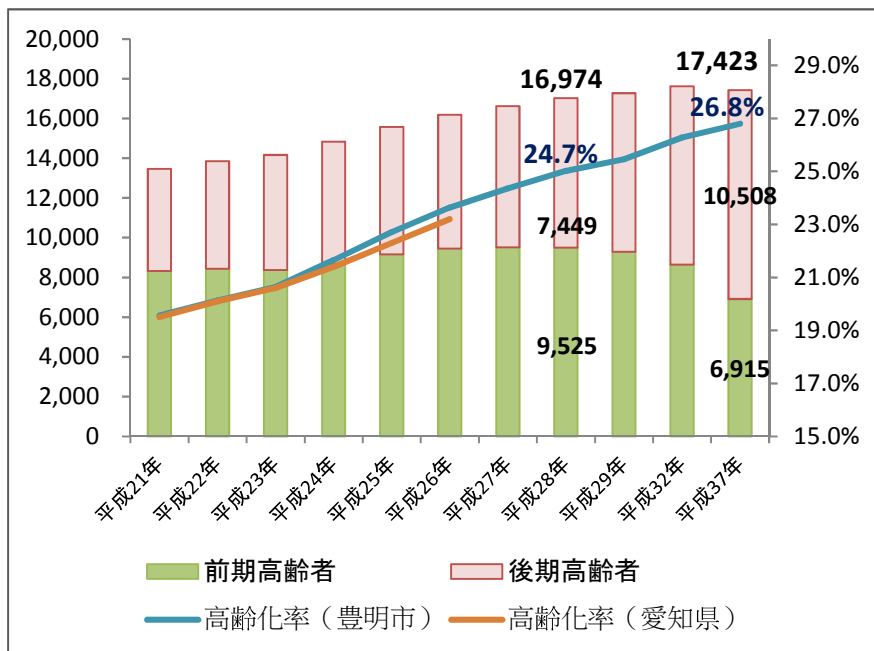


1 豊明市の地域包括ケアの取組み



豊明市の概況

- ・愛知県のほぼ中央に位置する名古屋市のベッドタウン
- ・人口 68,674人 (28,947世帯)
- 高齢者人口 16,974人 (平成28年4月1日現在)
- ・高齢化率 **24.7%** (県高齢化率より高い)
- ・人口構成は、前期高齢者に人口に山があり、
今後10年の後期高齢者の伸びが著しい地域特性



豊明市の医療・介護資源

医療資源

病院 3 (一般病床1,435、回復期床0、療養28)

藤田保健衛生大学病院、豊明栄病院

桶狭間病院藤田こころケアセンター

診療所 39、歯科 39、薬局 25、訪看 5、訪リハ 4

関連師会

- ◆医師会 : 東名古屋豊明市医師会
- ◆歯科医師会 : 愛豊歯科医師会豊明支部
- ◆薬剤師会 : 日進東郷豊明薬剤師会

介護資源

特別養護老人ホーム 4 (259床)

老人保健施設 2 (448床)

訪問介護 5, 通所介護 11

小規模多機能居宅介護 1

認知症対応型共同生活介護 4 (5ユニット)

定期巡回随時対応型訪問看護介護 1

居宅介護支援事業所 13

地域包括支援センター 2 (委託)



藤田保健衛生大学病院

許可ベッド数 : 1,435 床

平均在院日数 : 15,2 日

平均外来患者 : 約 2,100 人/日

医療従事者 : 約 2,600 人

年間手術件数 : 約 11,000 件

退院調整依頼 : 1,500 件/年

年間退院患者数 : 約25,000人

1つの医療施設としては我が国最多を誇る病床を持つ厚生労働省が定める特定機能病院

藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター

2013年2月1日、全国初「学校法人」による
介護保険事業設置許可
居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションを設置

24時間 365日体制で、重症やがん末期の訪問看護・リハビリも担う



豊明市を取り巻く社会変化

◇背景

- ・大都市近郊の高齢化の典型、**後期高齢者人口の著しい増加**
- ・**豊明団地**を中心に**独居高齢者・高齢者のみ世帯**の増加
- ・急激に増え続ける**医療・介護ニーズ**と深刻な**担い手不足**

◇課題

- ・**在院日数の短縮**、繰り返す入退院
- ・全国平均、県平均を上回る一人あたりの**医療費**
- ・**在宅を支えるサービスの不足**、施設サービス利用率の高さ
- ・医療・介護を担う**人材の育成、人材確保**
- ・**急性期医療、地域医療、介護**の連携
- ・地域包括ケアモデルの確立

愛知県地域包括 ケアモデル事業

(H26.4～H29.3 3ヶ年事業)
医療・福祉一体提供モデルとして実施

豊明市北部地域をモデル地区とし
藤田保健衛生大学とともに事業展開

豊明団地における取り組み
＝けやきいきいきプロジェクト



介護保険 地域支援事業を
活用して**地域包括ケアを通
じた地域づくりを充実・強化**

愛知県在宅医療連携拠点推進事業 (H26.1～H27.3 15ヶ月事業)

- ・地域包括ケア連絡協議会の設置
- ・多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成
研修事業の実施
- ・ICT「いきいき笑顔ネットワーク」による連携推進
- ・ICTネットワークと見守りセンサーを活用した見守りサポート
事業の実施 など

愛知県多職種協働による在宅チーム医療を担う 人材育成研修 モデル事業 (H26.1～H27.3 15ヶ月事業)

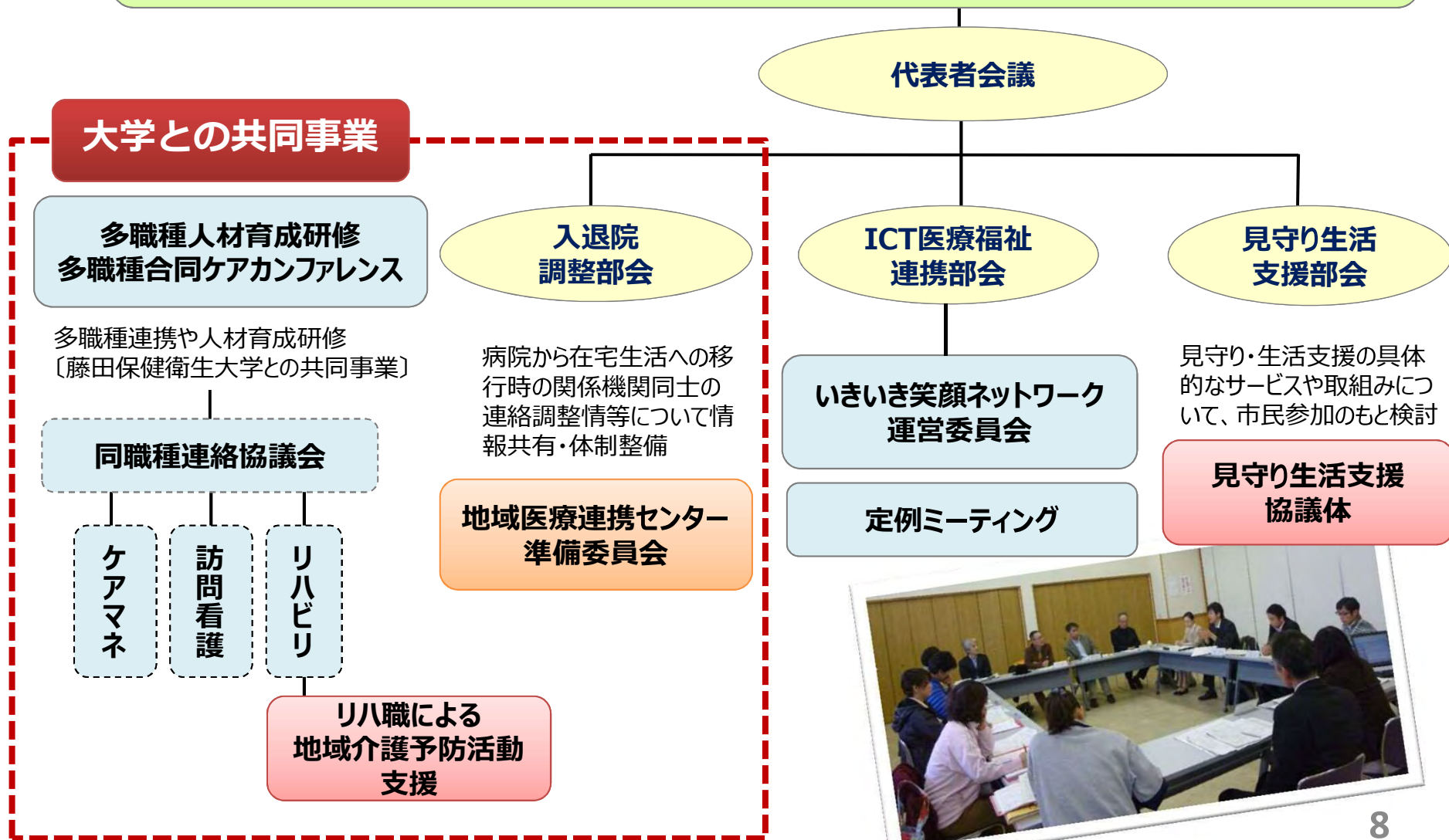
豊明市北部地域における地域包括ケアの取り組み

豊明市全体における在宅医療・介護連携推進に関する取り組み

東名古屋医療圏域（豊明市・東郷町・日進市・長久手市）における在宅医療・介護連携推進に関する取り組み

豊明市地域包括ケア連絡協議会

地域包括ケア体制構築に向けた各部会の取組状況の報告と課題の検討
平成26年4月設置 地域ケア会議の施策検討レベル会議として位置づけ



統合ケア×地域ケア (integrated-care) × (community based-care)

(自治体・大学が核となり地域のフォーマル・インフォーマルケアを統合)

目指す姿：本人の生活の場を中心とした保健・医療・福祉の統合ケアの確立

重点
取
組
み
事
項

◇ICT情報連携ツール「いきいき笑顔ネットワーク」活用

・ICTを「チーム支援」の標準ツールとして活用

◇医療介護人材育成事業

・多職種人材育成研修、地域の職能団体組織化支援

◇入退院連携に関する政策研究

・患者動向の分析、医療介護連携に係る課題分析

◇地域介護予防活動の支援

・地域へのリハビリテーション専門職の派遣、市民リーダー育成

◆ ICT「いきいき笑顔ネットワーク」の活用

ICTを利用した医療福祉統合ネットワーク、介護保険新規申請時に同意書取得取得



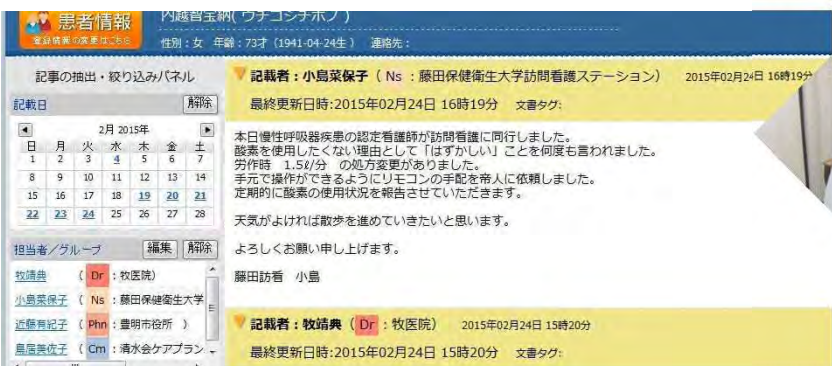
いきいき笑顔ネットワークの利用・登録状況 H28.6現在

患者登録者数 482人
 (参考) 豊明市の介護認定者数 約2,330人
 今までの患者登録記事数 約7,600件



登録医療機関・介護関係機関 143事業所

- ・医師会
- ・歯科医師会
- ・薬剤師会
- ・居宅介護支援事業所
- ・老健施設
- ・藤田保健衛生大学病院
- ・行政・包括
- ・障がい者相談支援センター
- ・デイケア
- ・ヘルパー事業所
- ・訪問看護、訪問リハビリ など



行政が介護保険新規申請時に利用同意を取得しておくことで、ICTを医療介護の「標準ツール」とし、主治医、ケアマネジャー、看護師、リハ職等の情報共有を円滑にし、統合ケアを実現する

◇ 医療介護人材育成事業 地域の職能団体組織化支援

- 職種ごとの同職種会設立。
- 代表者選出。同職種代表者は会議発言と、同職種会で会議結果報告の役割。
- 同職種共通課題の対策検討、3職種合同研修会開催。



地域の同職種代表者として、出席・発言し、決定事項の拡散

◇地域介護予防活動支援

①地域サロンへのリハ職派遣

大学が核となり、豊明市リハビリ連絡協議会と連携し、地域サロン等へ理学療法士を派遣
豊明市のオリジナル体操開発による介護予防普及、
市民リーダー育成



②まちかど運動教室

新しい総合事業の目玉事業として、H28から実施。

会場、運営は地元負担、市から民間のインストラクターを派遣し、地域の歩いて行ける場所に週1回の運動の機会を確保。
当日参加可という手軽さが好評で盛況。

平成28年度 地域会場 12会場
中央会場 1会場（2教室）
各会場 30～100名の参加者



2 モデル地域での実践

豊明団地における産学官協働の
地域包括ケアシステムづくり
「**けやきいきいきプロジェクト**」



豊明市
TOYOAKE CITY

×



藤田保健衛生大学
FUJITA HEALTH UNIVERSITY

×



豊明団地の現状

- 昭和40年代 高度経済成長期に建設
55棟 5階建て エレベーター有は2棟
- 団地居住 4,228人 世帯数 2,320世帯
うち、外国人 1,135人
- 65歳以上 1,159人
高齢化率 26.2%(除外国人 35.1%)
- 65歳以上独居者
約 270人 約 25% (市内平均 6%)
- 今後、老老世帯、独居世帯の増加予想
- 賃貸住宅ゆえのコミュニティの希薄化



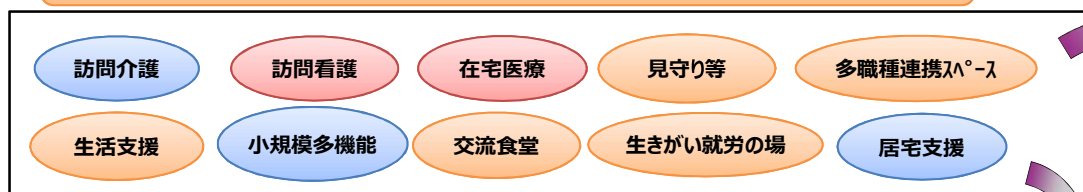


UR団地の地域医療福祉拠点化

URでは、「超高齢社会における住まい・コミュニティのあり方検討会」（座長：辻哲夫東大特任教授）の最終報告（H26.1）を受け、「多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちづくり」を目指し、UR団地を中心とする**地域医療福祉拠点の形成**に向けた取組みを推進

⇒ **平成32年度までに100団地程度**において拠点形成を目指す

団地の地域医療福祉拠点化モデル



地域包括、医療機関、介護施設等と連携強化

国又は地方公共団体による支援も



けやきいきいきプロジェクトのあゆみ

学校法人藤田学園との包括協定

- ・藤田保健衛生大学・藤田保健衛生大学病院との多分野での連携協力に関する包括協定締結



UR都市機構との包括協定

- ・超高齢社会に向けた団地の地域の医療福祉拠点化に向けて包括協定締結
- ・全国100団地拠点に選定



愛知県地域包括ケアモデル事業

- ・医療・福祉一体提供モデルとして実施 (H26.4~H29.3 3か年事業)
- ・豊明市北部地域をモデル地区とし 藤田保健衛生大学とともに事業展開
- ・豊明団地における地域包括ケアシステムづくり
「けやきいきいきプロジェクト」

豊明団地
UR都市機構による
医療福祉拠点整備
全国先行23拠点に



けやきいきいきプロジェクト

【構成・参加団体等】

- ・豊明団地自治会・老人会
- ・UR都市機構中部支社
- ・藤田保健衛生大学
- ・豊明市高齢者福祉課
- ・コープあいち とよあけ店
- ・豊明団地診療所医師
- ・UR豊明団地生活支援アドバイザー
- ・豊明市北部地域包括支援センター



プロジェクトのあゆみ

時期	実施内容
H26年 4月	あいち地域包括ケアモデル事業選定
	地域懇談会（市長、自治会、高齢者福祉課）
5月～10月	検討会（3回） ・意見交換（自治会、大学、UR、行政） ・高齢者ニーズ調査
10月～	高齢者健康増進事業開始（市×大学）
12月	けやきいきいきプロジェクト発足
12月～	けやきいきいきプロジェクト会議定例開催
H27年1月～	認知症サポーター養成講座、 認知症徘徊模擬訓練、住民向け講演会
4月～	団地学生居住開始
4月24日	まちかど保健室開所
5月～	学生らによる自治会活動への参加 団地商店街との交流
H28年3月	地域包括支援センターランチ開所
4月	病後児保育室「えがお」開所 学生居住 38人体制へ
4月～	コープあいちとよあけ店 店舗直送「ジェット便」スタート

立ち上げ準備

具体的な取組み

けやきいきいきプロジェクト-地域医療福祉の総合拠点へ

豊明団地ケアネットワークの協力体制

UR都市機構

- 拠点施設の受入れ(集会所棟・店舗の活用)
- 医療・福祉・団地コミュニティ活性化講座の開催支援(集会所の無償化等)
- 学生及び教職員用住宅の提供
- 訪問系サービス事業者のための駐車スペースの提供



学生・教職員の団地内居住とコミュニティ参加

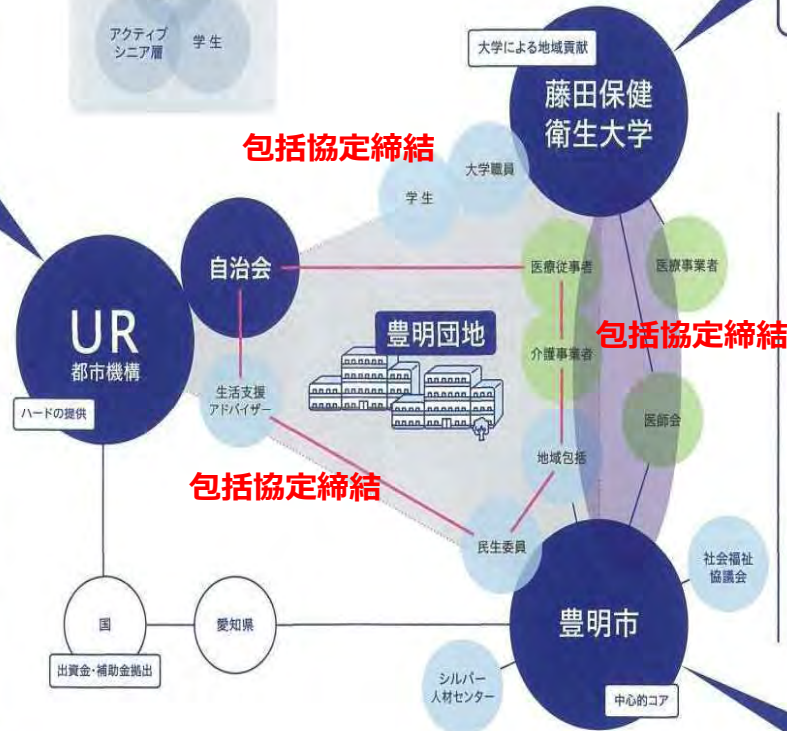
学生及び教職員が団地内に居住し、自治会開催の食事会や夏祭り等のイベントに参加。世代間交流を図っています。
URは人気家具ブランドとのタイアップによるリフォーム住宅の提供も行いました。



たすけあい協力の相互関係



- けやき会議等での連携
- UR・市・大学の3者協定
- いきいき笑顔ネットワーク(在宅医療福祉)



藤田保健衛生大学

- 団地内で地域医療福祉拠点「ふじたまちかど保健室」を運営
- 学生・教職員の団地内居住推進および団地内での自治会等コミュニティ活動への参加
- 団地をフィールドとした地域医療介護人材の育成

ふじた まちかど保健室

医療・福祉・介護等、乳幼児から高齢者までの無料相談を実施。
学生の在宅実習拠点としても活用する予定です。



豊明市

- 地域医療介護ネットワークの構築
- 地域ケア推進会議等の実施
- 地域包括支援センター機能の導入
- 在宅医療サポートセンターの導入
- 病後児保育機能の導入

けやきいきいきプロジェクト会議の開催

市・大学・UR・自治会や関係者が集まり、団地での地域包括ケアの取り組みについて定期的に会議を行っています。



UR都市機構のミクストコミュニティの形成



UR都市機構

UR どちらの近居でも
近居割

半径2km以内の
UR団地に
二世帯が近居

*半径2km以内に存在する世帯に限ります。各営業窓口でお問い合わせください。

新たに入居する世帯の家賃
5年間家賃が最大20%割引



Family

Parents

近居割 WIDE
エリア内で
二世帯が近居

URとUR以外の近居でも
近居割 WIDE

健康寿命サポート住宅の整備



UR都市機構

健康で長く住み続けて頂くための「健康寿命サポート住宅」

移動等に伴う転倒の防止に配慮した住宅改修と併せて、散歩しやすくなるような屋外空間や豊富な社会参画の機会等により外出しやすくなる環境を備えることで、健康寿命の延伸のサポートを目指します。



年齢を重ねると、家のなかでこんな事はありませんか？

※「健康寿命」とは、日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる期間を指します。

玄関

▶▶▶ 荷物を持って玄関に入る前にドアが開まってしまった…

01 ゆっくり閉まるドア

ゆっくり閉まる機能をもったドアクローザーだから、あわてずに入ることができます。

▶▶▶ 帰宅時に暗い玄関でスイッチを探していて靴箱にぶつかった…

02 人感センサー付き照明

玄関ホールの照明を人の気配を察知して灯りがつく人感センサー付きとしていますので、いつでも明るい玄関で安心です。

▶▶▶ 玄関の上がり框の段差で、つまずきそうになった…

03 上り框の位置がわかりやすい色彩

“ここに段差がある”ことがわかりやすいように、玄関と床の色をくっきりと変えました。また、玄関シートは雨の日でも滑りにくいものを採用しています。

▶▶▶ 靴を履いたり、脱いだりする時、ヨロヨロしてしまう…

04 手すりの設置

上がり框の段差の位置に手すりがあるので安心です。

▶▶▶ 鍵か訪ねてきても、不安でドアが開けられない…

05 モニター付きインターホン

モニター付きインターホンを設置していますので、来訪者の確認が簡単にできます。



※この図はあくまでもイメージです。実際には図面を参照してください。

トイレ

▶▶▶ 力がなくなったので、まわす形式のものが使いにくくなった…

06 ドアノブのレバーハンドル化

握力が落ちてしまった時でも、レバーハンドルであれば、開けやすく安心です。

▶▶▶ 夜中にトイレに行く時、ちよつとした段差につまづきそうになった…

07 段差の少ない出入口

日々使用するトイレでは、出入口の段差をできるだけ解消し、段差でのつまづきを防止します。

▶▶▶ 腰やひざが痛くて、落ちたり立ったりががひと苦労…

08 2か所の手すり

トイレ使用時に2か所の手すりを設置していますので、立ち上がりを補助してくれますので安心です。

▶▶▶ 冬場ヒヤッとするトイレの便座…

09 多機能便座

洗浄機能や暖房機能付き便座で、快適にトイレタイムが過ごせます。

浴室

▶▶▶ 浴槽に入る時、バランスを崩して転びそうになった…

10 3か所の手すり

浴室の出入口横、浴槽またぎ部、浴槽内横の3か所を手すりを設置していますので安心して入浴ができます。

11 またぎ高さを抑えた浴槽

浴槽のまたぎ高さをなるべく低くするとともに、浴槽内に手すりを設けていますので、安心して浴槽に入れます。

▶▶▶ 急激な温度変化で血圧が変化し、フラッシュしてしまった…

12 浴室ヒーターの設置

足元から浴室全体に暖気が回り込み、効率よく浴室を暖房します。入浴前に暖めておけば、居室と浴室の温度差によるヒートショック予防になります。



13 冷たさを軽減した床

冬場の入浴の際にヒヤッとしくく、濡れた素足で触れてもすべりにくいシートを浴室床に採用しています。

14 浴室外から開きやすい折戸

湯あたりや、室温と浴室の温度差による血圧の急激な変化など、入浴は体調の急激な変化が伴うことがあります。もしも浴室内で倒れてしまった場合でも、浴室外から助けやすいように扉を折戸にしています。

※折戸は、住戸により一部仕様が変わる場合があります。

※ヒートショックとは…

ヒートショックとは、暖かい部屋から寒い部屋への移動などによる急激な温度の変化によって血圧が上下に大きく変動することをきっかけにして起こる健康被害のこと。失神や不整脈を起こしたり、急死に至る危険な状態で、気温の下がる冬場に多く見られます。

散歩しやすくなるような屋外空間や豊富な社会参画の機会等の創出について、地元関係者等との連携によりURも積極的に支援してまいります。



詳しい内容につきましてはURホームページをご覧ください
<http://www.ur-net.go.jp/welfare/>



*本冊子の写真、図像、イラストは実例はイメージです。
 *記載されている内容などの内容は予告なしに変更する場合があります。
 *本冊子の一部または全部を複製、複製、あるいは転載することを禁じます。



生活支援アドバイザーの配置

地域医療福祉拠点化取組み団地に生活支援アドバイザーを配置

<生活支援アドバイザーの主な役割>

- ① 高齢者相談及び福祉関係者との連携
- ② 高齢居住者に対する見守り（あんしんコール）
- ③ 地域交流イベントの開催



<あんしんコールのスキーム>



週1回、電話での安否確認を実施



安否が確認出来ない

<あんしんコール登録者>



巡回等による直接確認
状況により緊急対応へ

団地内の巡回や、コミュニティ形成イベント時など
あんしんコール登録者と直接お会いすることもあります。そ
ういった信頼関係から見えてくる問題も少なくありません。



保健・医療の拠点「まちかど保健室」開所

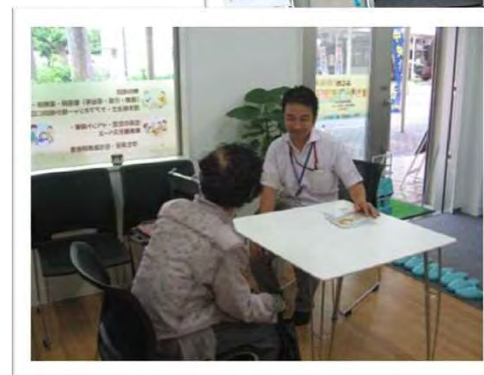


豊明団地商店街内の空き店舗を利用し、
UR都市機構中部支社と藤田保健衛生大学
による共同プロジェクトとして開所
藤田保健衛生大学の教員、医療専門職が、
交代で住民からの相談に応じる



まちかど保健室概要

- 開室時間** : 平日10～15時
- 料金** : 無料
- 対象** : 市内外誰でも
- 応対者** : 看護・保健師、ケアマネ
理学・作業療法士、薬剤師
- 相談方法** : 面接、電話、メール
- 相談記録** : 利用者ごとの記録簿管理
- 主な相談** : 健康不安（8割）、
薬剤、治療など
- 平均相談時間** : 30分程度
- ミニ講座** : 毎日実施



利用実績（4月末～5月末まで13ヶ月間）

- 開所日数 : 264日
- 延べ来室者数 : 3,719人(平均 14人/日)
- 講座参加者数 : 1,845人(平均 6.9人/日)
- 個別相談件数 : 435件(平均 1.6件/日)
- 認知症疑い早期発見: 18件

ふじた
地域とともに健康をつくりたい
まちかど保健室カレンダー

藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター サテライト



午前11時～ / 午後 2時～
相談は10～15時 いつでも受付しています

行事の予定は、都合により変更することがあります。ご了承下さい。

日にち (曜日)		6/28 (日)	6/29 (月)	6/30 (火)	7/1 (水)	7/2 (木)	7/3 (金)	7/4 (土)
午前	ミニ講座	<自治会> ふれあい食と出張相談	脳トレーニング	お薬手帳の使い方	咳、痰、タバコの悩み、肺が楽になる呼吸嚙下体操！	頭の体操で認知症予防	夏バテ予防について	休み
	担当		看護師	薬剤師 看護師	リハビリ療法士	薬剤師 看護師	看護師	
午後	ミニ講座	出張相談	訪問看護って何？②		七夕かざりを作りましょう	頭の体操で認知症予防		
	担当		看護師 リハビリ療法士	薬剤師 看護師	看護師	薬剤師 看護師	看護師	

学生・職員の豊明団地居住



カラーコーディネート・IKEA改装モデルルーム

- 2015年 4月 学生・職員計18人居住開始
2016年～ **学生・職員 37名居住体制へ**
 - **4 or 5階の空室が対象**、URが改装
- 全室2DK～3DK **家賃 10～20%引 家賃32,000～**
IKEAコラボ改装 カラーデザイン改装他
- 居住条件
自治会活動、保健室活動に参加し住民と交流、地域貢献
高齢独居者との食事会、安否確認、災害時の避難誘導、清掃活動



豊明団地居住学生と自治会役員

居住学生による地域活動参加

学生と自治会会議



公園清掃



学生による買い物支援



防災訓練



災害時炊き出し訓練



独居高齢者とのふれあい会食



豊明団地夏祭り



学生は団地に住むことで 高齢者が抱える現実の生活課題を学ぶ



豊明市二村台の豊明団地に住む藤田保健衛生大の学生が十九日、団地内のふじたまちかど保健室で、子どもたちを招いたクリスマス会を開き、交流を楽しんだ。

(並木智子)

豊明団地でXマス会

団地には、今年四月から医療や看護を学ぶ同大の学生十六人が居住。高齢者の生活や地域医療の現状をじかに学びながら、地域交流の場にも積極的に参加している。

今回は、団地に住む子どもたちとクリスマス会

藤田保健大生、子どもら招き交流

一緒に楽しもうと、学生が初めて子ども向けのイベントを企画。外国籍の子や学校から戻っても親が仕事で一人で過ごす子どもを抱えている子がいることを聞いたことがきっかけで、近くの保育園や母親グループなどにチラシを配布した。

この日は、玉入れやじゃんけんゲームなどを用意。学生らはかぶりものをしたり優しく声を掛けたりして、集まった約十五人の子どもの楽しませた。最後にはクリスマスソングも一緒に歌った。

同大医療科学部一年の大井知佳さん(仮名)は「同じ棟の人とはよくあいさつするし、うまく交流ができていと思う。昼間は授業でいないけど、子どもたちとも関わってみたい」と話していた。

子どもたちと遊びを楽しむ学生の豊明市のふじたまちかど保健室で

日新聞 朝刊 2016 (H28) 年 1月26日 (火)

「体が少し、多いですね。日よ運動をしましょうか。体脂肪を減らすために、男子学生が女性高齢者に、身長や体重、血圧のほか、費用の面でも高齢者に合わせた運動器具や、趣味の道具などを貸してあげたい。健康への関心を高め、体の状態が許せば、

高齢化が進む中、学校の保健室のように地域住民が気軽に立ち寄って簡単な健康診断を受けたり、体のことを相談したりする施設が各地に設けられている。大学や地域と連携して、住民の健康寿命を延ばす取り組みを支援しながら、将来の地域医療を担う人材育成を図るなど、それぞれ地域のニーズを踏まえた活動を展開している。中部地方各地の取り組みを、2回にわたって紹介する。

(佐橋大)



街角で学生が健康支援



地域医療人材も育む

学生が地域の健康支援に力を入れている。豊明市は、今年四月から医療や看護を学ぶ同大の学生十六人が居住。高齢者の生活や地域医療の現状をじかに学びながら、地域交流の場にも積極的に参加している。

今回は、団地に住む子どもたちとクリスマス会を開き、交流を楽しんだ。

(並木智子)

歩行が難しく、ふたりの血圧を測定しては、保健室で簡単な健康診断を受けたり、体のことを相談したりする施設が各地に設けられている。大学や地域と連携して、住民の健康寿命を延ばす取り組みを支援しながら、将来の地域医療を担う人材育成を図るなど、それぞれ地域のニーズを踏まえた活動を展開している。中部地方各地の取り組みを、2回にわたって紹介する。

(佐橋大)

病後児保育室・地域包括支援センター開所



今後の計画

◇豊明団地集会所棟→地域医療福祉拠点施設へ改修

- ・地域医療連携センター【豊明市・近隣自治体・医師会ほか】
- ・**Robotic Smart Home【大学・県内大手企業】**
住宅用介護ロボット開発、モデルルームにおける実証研究
- ・コミュニティスペース【UR】

◇居住環境の整備

- ・中層住棟へエレベータ設置【UR】
- ・健康寿命サポート住宅の供給【UR】

◇学生居住

- ・毎年20戸ほどを学生居住用に改修【UR】
- ・4年間で（2018年までに）学生80～100名居住体制

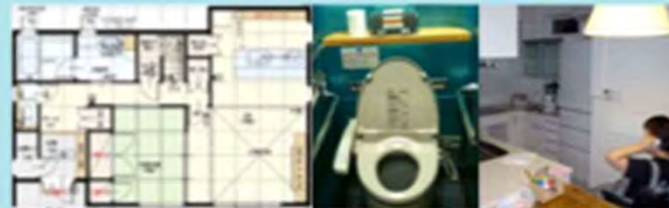
◇全国団地×大学 地域包括ケア研究大会開催

- ・H28年8月27日 藤田保健衛生大学にて開催予定



空間デザイン

ロボットが活躍できる
空間性をデザイン
団地住人に居住してもらい実証



移乗移動支援

介護支援ロボットのうち
必須かつ難課題である
移乗介助ロボットを製品化



サーバント

総合支援のための
操作代行とIoT連携役となる
サーバントロボットを製品化



コミュニケーション支援

居ながらにして外界に繋がり
参加型健康増進を支援する
テレビ型機器を製品化



実証実験

健康長寿支援ロボットセンターが
ポータルとなりロボット開発者に
真の在宅実証機会を提供

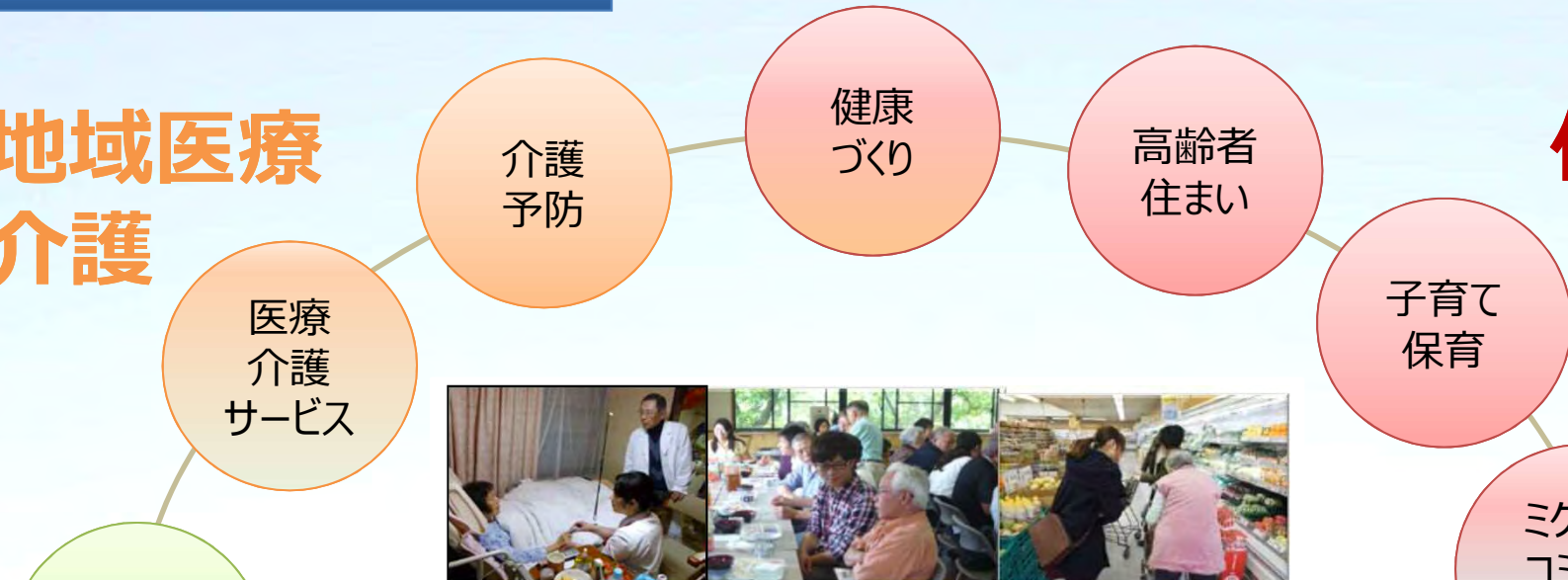


産業への波及効果

在宅介護実証実験モデルを構築し、プロジェクトを超えて
県内企業が開発するロボットの実証実験を支援

- 介護ロボット機器だけでなく機器を活用する環境や介護手法を合わせてトータルに提案することで、**新しい介護の姿を示す**。
- 普及の**初期段階**では、**介護施設や病院等の施設**を中心に導入していく。その後効果検証を重ねながら**アーリーアダプター**となる**個人居宅**への導入を推進していく。
- 県内住宅や施設への優先的な**モデル展開**によって**先端介護県**としての愛知県を内外にアピール。医療福祉産業を更に活性化する。
- 健康長寿支援ロボットセンターと連携し、県内個別企業の開発機器の評価を支援し、**県内企業の機器開発を促進**する。
- 居住性の高いロボティクススマートホームを実現し、同様に居室面積が狭いアジア諸国市場で有利な知見を蓄え、**アジア諸国への販売モデル**を構築していく。

地域医療 介護



住まい 地域



豊明団地 けやまいきいきプロジェクト

地域包括ケアをキーワードに
地域資源の持つ力を結集



教育 人材確保

サービス 次世代産業

